



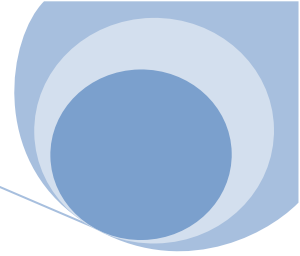
日本語教員養成プログラム ガイドブック

日本語教育を学ぶ人のために

2025 年度 保存版

山梨大学教育学部

日本語教員養成プログラム運営委員会



Ⅰ. プログラムの概要



新入生の皆さん、ようこそ山梨大学教育学部へ！

山梨大学教育学部には、教科教育のすべてのコースがありますが、その他にもいくつかの特色ある教育プログラムが用意されています。

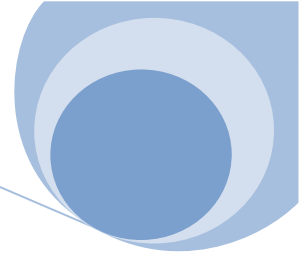
「**日本語教員養成プログラム**」は、日本語教育について理論的かつ実践的に学ぶ**副専攻プログラム**です。グローバル化していく現代社会において、主体性と協調性を兼ね備えた人材の養成を目的として、2008年に山梨大学に新たに開設されました。

教育学部の学生なら、コースを問わず誰でも受講することができます。小中学校、高等学校の教員を目指す人、国内外の日本語学校で日本語教師になりたい人、日本語や日本文化に興味がある人などを歓迎します。

プログラムの背景と目標

- 国内外の日本語教育機関で日本語を教えたい人、また、青年海外協力隊や日本語パートナーズなどの事業で国際協力に参加したい人にとって、日本語教育に関する基礎知識や技能を学ぶことができます。
- 日本の学校では日本語指導を必要とする児童生徒が増えています。小中学校や高等学校の教員を目指す人は、外国につながる子どもたちの日本語指導を行うための基礎的な知識、技能、態度を学ぶことができます。
- 現代の日本社会は、外国にルーツを持つ人たちとともに暮らす多文化社会へと急速に転換しつつあります。異なる言語と文化を背景に持つ外国人と共生できる社会を実現するための知識を学び、生涯学習教育に生かすことができます。





Ⅱ．基礎科目

本プログラムでは、日本語教育概論、日本語教授法、日本語学、言語学など、日本語教育について多角的に考えていくための科目を学びます。ここでは日本語教育を中心とした基礎科目を紹介します（「**時間割**」p. 10 参照）。

日本語教育学

日本語教育を取り巻く歴史と現状、日本語を教えるための方法を学びます。また外国人の子どもや留学生を対象にした日本語教育実習を行います。

日本語教育概論

日本語教授法

日本語教育実習Ⅰ／Ⅱ

日本語学

日本語の音声、文字表記、語彙、文法、文体など、日本語の基礎的な内容を学習します。高校までの国語とは異なる観点から、外国語としての日本語をとらえていきます。

日本語の音声・音韻

日本語の文字・表記・語彙

日本語の文法

言語学

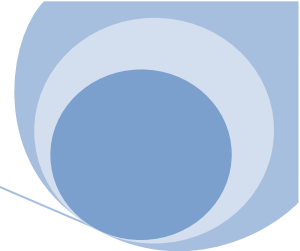
言語一般の特徴について、ことばと社会、ことばと心理という観点から学びます。関連科目として、言語学概論、国語学概論、英語学概論などがあります。

社会言語学

言語心理学

言語習得論





Ⅲ. 卒業後の進路

外国人児童生徒教育

現在、日本の学校には、**日本語指導が必要な児童生徒**が増えています。小中学校や高等学校の教員を目指す人は、そのような子どもたちの学びを支援するための知識、技能、態度を身につけることができます。

また、外国につながる子どもたちには、日本語指導だけでなく、母語や母文化にも配慮した指導が求められており、現在そうした子どもたちを指導できる資質・能力を備えた教員—**多文化教員**の育成が急務とされています。

日本語指導が必要な児童生徒

日本語指導が必要な児童生徒とは、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じ、日本語指導が必要な児童生徒」のことをいいます。

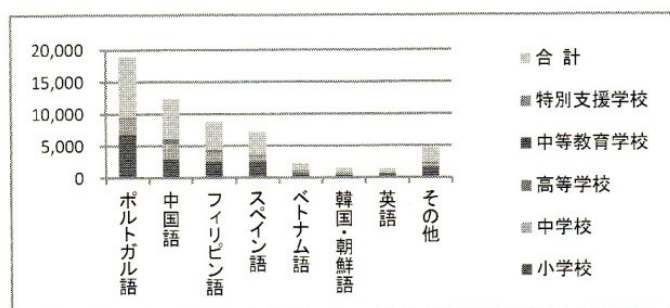
多文化教員の養成・研修に向けて

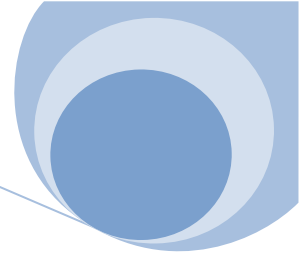
文部科学省では、日本語指導が必要な児童生徒を専門的に指導することができる教員の養成・研修を整備してきており、今後ますますこの分野の需要は高まってくると予想されます。

特別の教育課程

学校教育法では、平成 27 年度から、日本語指導が必要な児童生徒の実態を踏まえたうえで、個に応じたきめ細かな教育を行うための「**特別の教育課程**」を編成するとされています（「学校教育法 施行規則」）。

日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況





日本語教師になるために

日本語教師になるための条件としては、次のようなものがあります。

- 日本語教育に関する大学・大学院を修了
- 日本語教師養成のための専門機関で 420 時間プログラムを修了
- 日本語教育能力検定試験に合格

本プログラムは「日本語教育に関する大学を修了」の条件を満たし、プログラム修了者（28 単位を修得）には本学より「**修了証**」が授与されます。

プログラム修了後の進路

A. 国内の公立学校

国内の公立学校で日本語を母語としない児童生徒に対する日本語指導を行うことができます。なお、平成 25 年度から、外国籍児童生徒への日本語指導は「**特別の教育課程**」（「学校教育法 施行規則」）に位置づけられました（「**教育現場の声**」 p. 12 参照）。

B. 日本語学校

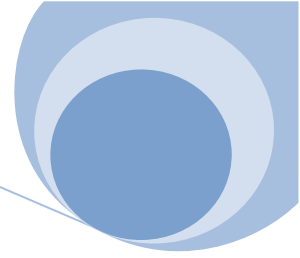
現在、国内の日本語教師の需要は高まっています。大学卒業後に国内の日本語教育機関に就職する人も増えてきています。本プログラム修了生のなかにも、卒業後、日本語学校で教えている先輩がいます（「**修了生の声**」 p. 14 参照）。

C. 青年海外協力隊

国際協力機構（JICA）が海外ボランティアとして「日本語教師」を派遣しています。本プログラムを修了すると日本語教育の副専攻相当の教育を受けたことを証され、広く応募の門戸が開かれます。

日本語パートナーズ

国際交流基金アジアセンターが、2014 年より ASEAN 諸国の教育機関に日本語授業アシスタントを派遣しています。このプログラムは、大学生も在学期間中に応募することができます。



IV. 教員紹介

仲本 康一郎（なかもと こういちろう）

全学共通教育センター（兼 教育学部） 教授

専門分野 日本語教育、認知言語学

担当科目 日本語教育概論、日本語の文法、言語心理学

長谷川 千秋（はせがわ ちあき）

教育学部 教授

専門分野 日本語学、日本語の歴史

担当科目 社会言語学、日本語史

伊藤 孝恵（いとう たかえ）

国際化推進センター 教授

専門分野 日本語教育、異文化接触

担当科目 日本語教授法、日本語教育実習Ⅰ

江崎 哲也（えさき てつや）

国際化推進センター 教授

専門分野 日本語教育、音声学

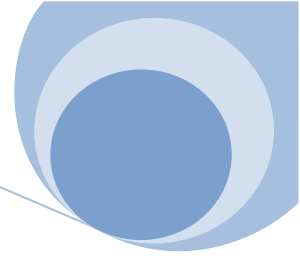
担当科目 日本語の音声・音韻、日本語教育実習Ⅰ

布村 猛（ぬのむら たけし）

国際化推進センター 助教

専門分野 日本語教育、地域日本語教育

担当科目 日本語教育実習Ⅰ



V. 質問コーナー

Q1. 日本語教師ってどんな職業ですか。どうすれば日本語教師になれますか。

日本語を学びたいと考えている人は、日本国内だけでなく世界中にたくさんいます。日本語教師は、そうした**日本語を母語としない人たちに、外国語として日本語を教える教師**のことをいいます。

現在、日本語教師になるためには、いくつかの方法があります。ひとつは日本語教育に関する大学、大学院、専門学校を修了すること。もうひとつは日本語能力検定試験に合格していることです。本プログラム修了は、前者の条件を満たしています。

Q2. 日本語指導が必要な児童生徒が増えているって本当ですか。

日本語指導を必要とする児童生徒とは、日本語で日常会話が十分にできない児童生徒、また、日常会話ができて、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加が困難な児童生徒のことをいいます。

現在、こうした子どもたちは、少なく見積もっても、全国に6万人はいるとされています。本プログラムでは、こうした外国につながる子どもたちに向けた日本語指導、支援を行うための基礎を学ぶことができます。

Q3. プログラムに履修する条件はありますか？また、どんなことを学びますか？

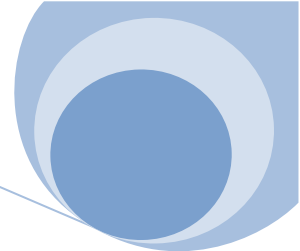
教育学部の学生なら誰でも履修できます。ただし、共通科目や専門科目と並行して学ぶことになるので、事前に履修計画を立てる必要があります。修了までに最低2年間を必要とします。1年次か2年次からの履修を勧めます。

本プログラムでは、日本語教育、日本語学、言語学などの基礎科目のほかに、教育学、心理学、社会学、日本学、異文化理解など幅広い内容を学びます。またプログラムの最後に、**本学の留学生や外国人児童生徒を対象とした日本語教育実習**を行います。

Q4. 日本語教育の知識が必要とされている分野はほかにありますか？

日本語教育に関する知識、技能、態度は、発達障害や学習障害など、特別なニーズを持つ子どもの教育、支援にも役立ちます。とりわけ日本手話を母語とする「ろう」の子どもたちは**第二言語としての日本語教育**を必要としています。

また、異文化を背景とする人びとと交流したり、地域で外国人を支援したりする際も日本語教育は大きなツールとなります。その意味で日本語教育の実践は、外国につながる人びとが日本社会でいきいきと活躍できる環境づくりとつながっているといえるでしょう。



VI. 履修規定

プログラムの履修科目は、《社会・文化・地域》《言語と社会》《言語と心理》《言語と教育》《言語》の5領域からなっています。これらの科目からプログラム修了に必要な単位数 **28 単位を修得**すると、本学から「**修了証**」が発行されます。

必要単位数と必修科目

必要単位数

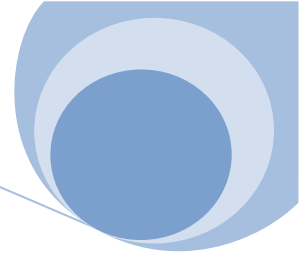
《社会・文化・地域》から2単位、《言語と社会》から4単位、《言語と心理》領域から4単位、《言語と教育》から6単位、《言語》から6単位を修得し、加えて任意の領域から6単位を修得し、合計で28単位以上を修得することが要件となります。

必修科目、選択必修科目

日本語教育概論、日本語教授法、社会言語学は必修科目です。また、言語心理学と言語習得論は1科目選択の選択必修科目、日本語の音声・音韻、日本語の文字・表記・語彙、日本語の文法は2科目選択の選択必修科目、日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは1科目選択の選択必修科目です。

履修順序

日本語教育概論と日本語教授法は、この順序で履修することを原則とします。また、日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱを履修するためには、日本語教育概論と日本語教授法の両方の単位を修得していること、または履修中であることを原則とします。



日本語教育実習

履修内容

日本語教育実習は、本プログラム修了のための**選択必修科目**（2単位）です。実習Ⅰでは、本学の留学生を対象とした教育実習を行います。実習Ⅱでは、山梨県の小学校に在籍する外国人児童を対象とした教育実習を行います。

履修申告

日本語教育実習を履修する人は、必ず**実習ガイダンス**に出席してください。ガイダンスに参加せずに実習に参加することはできません。特に、日本語教育実習Ⅱについては、事前に教育委員会に**教育調書**を提出する必要があるので注意してください。

※ ガイダンスの日程は CNS で通知します。例年、**3年次の7月上旬**です。

修了証

プログラム修了に必要な所定の単位を修得すると、山梨大学から「**修了証**」が発行されます。なお、修了証は、国内外の日本語教育機関に応募する際に必要となります。大切に保管しましょう。また、必要に応じて「**修了見込書**」が発行されます。

修了証の申請について

修了証を取得するには、教育学部教務への事前の申請が必要になります。

※ 申請期間は CNS で通知します。例年、**4年次の12月上旬**です。

修了見込書の申請について

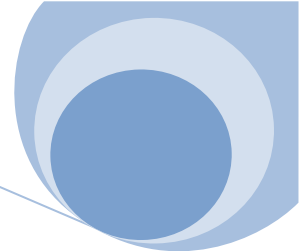
本プログラムを修了見込みであることを証明する必要がある人は、修了見込書を発行します。随時、教育学部教務で申請をしてください。

日本語教員養成プログラム 開講科目一覧

		必選	単位	科目名	学年	授業内容キーワード
社会・文化・地域	世界と日本	1科目	2	日本文学概論	2	日本文学
			2	日本古典文学史	2	日本文学
			2	書写演習Ⅰ	2	日本文化・書道
			2	イギリス文学史	2	外国文学・異文化理解
			2	アメリカ文学史	2	外国文学・多文化社会
	異文化接触		2	日本史概説	2	日本の歴史
			2	外国史概説	2	世界の歴史
			2	哲学倫理思想史	2	西洋思想
			2	生涯学習論	1	生涯学習
	要求単位数	2単位				
言語と社会	言語と社会の関係	1科目	2	社会言語学	2	社会言語学
			2	社会学概論	2	社会学
	2		子ども文化論	3	子どもと文化	
	2		異文化間コミュニケーション	3	異文化間コミュニケーション	
	異文化コミュニケーションと社会		2	異文化理解Ⅰ	3	異文化理解
			2	異文化理解Ⅱ	3	異文化理解
			2	教育学概論	1	教育政策
			2	学校教育相談論	2	教育相談
			要求単位数	4単位		
	言語と心理	言語理解	選必	2	1科目	2
言語発達		選必	2	2		言語発達
言語学習と教育		1科目	2	児童期心理学	1	児童期の心の発達
			2	英語教育の諸問題Ⅰ	2	外国語学習・教育
			2	英語教育の諸問題Ⅱ	2	外国語学習・教育
異文化理解と心理			2	生涯発達教育心理学	1	教育心理学
			2	青年期心理学	1	青年期の心の発達
			2	学校臨床心理学	2	臨床心理学
要求単位数		4単位				
言語と教育		日本語教育・実習	必	2	1科目	1
	必		2	1		日本語教授法
	選必		2	3		教育実習
	選必		2	3		教育実習
	外国語教育		2	初等外国語科教育学	1	初等外国語教育
	言語教育と情報		2	ICT活用入門	1	PCソフト
	要求単位数	6単位				
言語	日本語の構造	選必	2	2科目	1	日本語の文法
		選必	2		1	日本語の音声・音韻
		選必	2		1	日本語の文字・表記・語彙
	言語の構造 言語研究	1科目	2	日本語史	2	日本語史
			2	国語学概論	2	日本語学
			2	中国語学研究	2	中国語学
			2	英語学概論	3	英語学
			2	言語学概論	2	一般言語学
	コミュニケーション能力		2	英語会話	2	外国語運用能力
	要求単位数	6単位				
総要求単位数	28単位	28単位＝14コマとして 14コマ×30時間＝420時間				

(必): 必修科目

(選必): 選択必修科目



VII. 時間割

本プログラムは、**学部共通の必修科目**、**選択必修科目**が利用できるため、専門コースの履修と両立しやすいように構成されています。ただし、プログラム修了までに最短でも2年間はかかります。コースの時間割を参照し、計画的に履修をしていってください。

プログラム基礎科目 時間割

前期

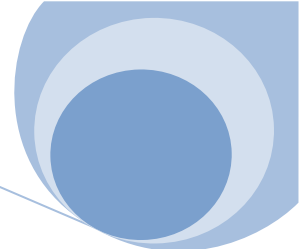
	月	火	水	木	金
I		日本語教育概論 (仲本)			
II	日本語教育実習Ⅱ (仲本)				
III					
IV	社会言語学 (長谷川)				
V					

後期

	月	火	水	木	金
I		言語心理学 注2 (仲本)	日本語史 (長谷川)	日本語の文法 注1 (仲本)	
II					
III					
IV				日本語教授法 (伊藤)	
V			日本語教育実習Ⅰ (伊藤・江崎・布村)	日本語の音声・音韻 (江崎)	

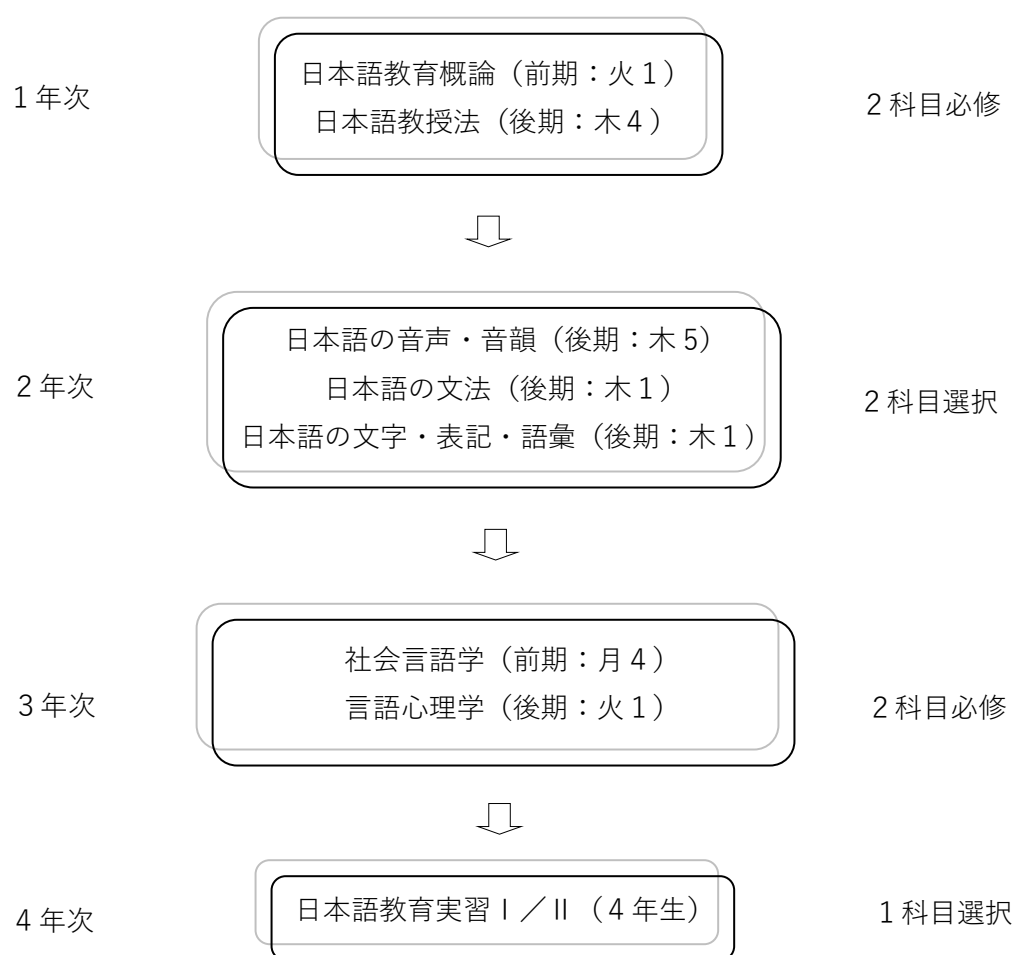
注1) 「日本語の文字・表記・語彙」は「日本語の文法」と隔年で開講します。

注2) 「言語習得論」は「言語心理学」と隔年で開講します。



VIII. 履修モデル

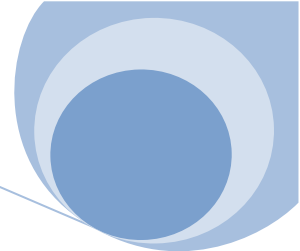
日本語教育に関心を持てるかどうかまだわからないという人は、まずは「**日本語教育概論**」の受講を勧めます。その後、続けてみようと思えば、「**日本語教授法**」やその他の基礎科目へ進んでいくとよいでしょう。



山梨大学から日本語教育の専門教育を受けた証として「**修了証**」が発行されます！



終わった!!



教育現場の声

外国にルーツを持つ子どもたち

今澤 ^{やすし} 悌 先生（甲府市立大國小学校日本語指導担当教員）

文部科学省日本語指導アドバイザー

近年、国際化が進み、外国にルーツを持つ子どもたちが学校現場に数多く在籍するようになってきています。日本に來たばかりの「外国人」の子どもたちは、まずどんなことに戸惑い、困難を感じると思いますか？そう、日本語です。子どもたちは日本の学校に編入してから否応なしに日本語を覚えなければならない状況に置かれます。わけのわからないことばが頭の上を飛び交う環境にいきなり入れられ、そこでずっと生活しなさいと言われてたら…。

子どもたちが習得しなければならないのは、日常会話だけではありません。学習に使われることばや表現——学習言語を習得していかないと勉強についていけなくなります。日常会話は1～2年で習得できますが、学習言語を習得するには5～7年かかるといわれています。認知力や思考力、判断力や表現力、社会性など、学齢期の子どもたちが育むべき力は多いのですが、その多くはことばを介して育っていきます。そのことばが充分でなかったら…。日本社会のなかで学習についていけないということは、その後の生活に大きな影響を受けることになります。ことばの問題なのですが、成長、発達途上の子どもたちの場合、ことばの問題だけではすまないのです。

そして、学齢期に日本に來た子どもたちがぶつかる最大の壁は進路の問題です。ほとんどの子は高校進学を希望しますが、第二言語で挑まなければならない高校入試の壁は本当に厳しいです。「日本人」の子どもたちの高校進学率は100%に近いですが、外国にルーツを持つ子どもたちの進学率は非常に低いと言われています。ことばの問題は、その後の子どもたちの人生に大きな影響を与える問題なのです。

また、子どもたちは日本の学校という異文化の環境にいきなり入ることになり、その環境で毎日生活しなければなりません。学校に「一歩足を踏み入れたとたんに、そこは異文化の世界」なのです。その上、わけのわからないことばが頭の上を飛び交い、何もことばが通じない…。そんな環境のなかで、今日を、明日を、1週間を、1ヶ月、1年…とずっと過ごすと思うと…。大人（保護者）は目的、目標を持って來日します。しかし連れられてくる子どもたちはどうでしょう。子どもたちはすべて、自分の意思ではない來日です。「來たくなかった」という思いを持って來日する子どもたちも少なくありません。そして來日後、すぐに異文化、異言語の環境——日本の学校に入れられます。自分の意思でない來日、

来たくなかったという思いのなかで、その異文化に適応し、日本語を覚えるよう言われます。そして何年も経たないうちに、進路、進学という壁に直面していきます。

日本で生まれ育った外国にルーツを持つ子どもたちにも、課題が多くあります。家庭の言語環境により、不十分な母語習得になってしまったり、日本語の習得が不十分なままになってしまったりする子どもたちも多いです。またやはりことばの問題だけでなく、様々な問題を抱えています。アイデンティティ、母語、進路・進学、保護者との関係、…。これらの分野はまだまだ課題が多く、外国にルーツを持つ子どもたちが、日本の学校や社会の中で生き生きと生活できていない現状があります。しかし、様々な課題や困難の中、子どもたちは一生懸命生活しています。これからも多くの外国にルーツを持つ子どもたちは増えていくと思われます。ぜひ、このような子どもたちの現状を知り、また実際触れあってみてください。足下の国際化を考えるきっかけにいただけたらうれしいです。

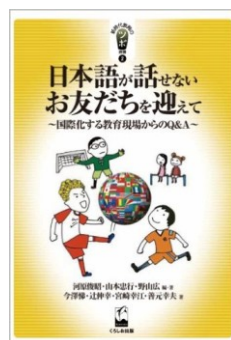
今澤 悌先生の本

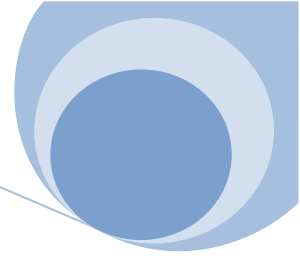
今澤先生は、日本の学校における外国人児童生徒教育の第一人者で、文部科学省の日本語指導アドバイザーも務めておられます。こんな立派な先生が、甲府市の小学校におられるなんて、私たちにとって本当に幸せなことだと思います。

先生の書かれた著書はどれも外国につながる子どもたちのことを知ってもらいたいという熱い思いにあふれています。皆さんも是非この分野に関心を持ち、将来、外国にルーツを持つ子どもたちの指導、支援に加わってほしいと願っています。

- ① 『日本語を話せないお友だちを迎えて』（くろしお出版）
- ② 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』（凡人社）
- ③ 『小学校「JSL 国語科」の授業づくり』（スリーエーネットワーク）

※ 日本語教育実習Ⅱを受講する学生は先生から直接指導を受けられます。





修了生の声

日本語教育実習Ⅰに参加して



加藤 ^{りょうこ} 涼子さん（プログラム修了生）

私はもともと外国語を学ぶことに興味があり、幼い頃から覚えた単語を使って外国の方々と話をすることが大好きでした。山梨大学に入学して、日本語教員養成プログラムという副専攻のプログラムがあることを知ったとき、日本語を教えられるようになったら、もっと色々な国の人たちと関わったり、かれらの役に立ったりできるかもしれないと思い、受講を決めました。

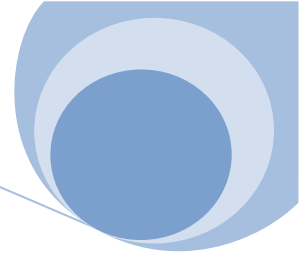
日本語教育の現状や歴史的な背景、また、日本語そのものについて学ぶことは、日々、新しい発見の連続でした。日本で生活する外国人の数がなぜ増えているのか、彼らはどんなことに困難を感じていて、日本語を母語とする私たちはどのように彼らを手助けできるのか、日本語教員養成プログラムというきっかけがなければ、おそらく知らずに通り過ぎてしまったかもしれません。

授業を通して、日本語教育を取り巻く様々な現実に触れるうち、今の日本にとって、日本語教育がとても重要な役割を果たしていることを実感しました。また、これからも増えていくであろう日本に暮らす外国人、また、日本の学校現場にいる外国にルーツを持つ子どもたちを支援するためには、日本語教育の基本的な知識を持っていることはとても意味のあることと思います。

日本語教育実習では、山梨大学に所属する留学生を対象に授業を行いました。日本語を学ぶ目的や、もともと持っている日本語の能力が一人一人異なる日本語教育は、全員で同じカリキュラムを学ぶ小学生や中学生に対する学校教育とは大きく異なるものです。教材の選び方や授業の組み立て方、学生との関わり方により細かい分析と配慮が求められ、授業準備には多くの時間をかけて取り組みました。

なかでも、留学生と話すときの適切な言葉遣いに悩んだことは強く印象に残っています。私たちが日々の生活で使っている複雑な表現を避け、外国人にもわかりやすく伝えることを目的とした「やさしい日本語」という実践があることは以前から知っていましたが、実際にそれを意識してコミュニケーションをとった経験のなかった私は、実習をはじめたとき、留学生との日本語での会話にとっても苦労しました。

簡単な単語や言い回しばかりを使って留学生を子ども扱いされているように感じさせてしまったり、反対に、丁寧な敬語を使い過ぎて伝えたいことが伝わりにくくなったりして、相互理解を図るのに苦労したことを覚えています。話す内容を事前に整理して簡潔にした



り、発音やイントネーションに気をつけたりして工夫を重ね、だんだんと留学生とのコミュニケーションが自然になっていったのがうれしく、やりがいを感じました。

私は卒業後、英語科の教員として山梨県の公立中学校で勤務します。中学生に英語を教えることで、生徒たちが英語という外国語を好きになり、外国語でのコミュニケーションに関心を持てるよう指導してきたいと思います。また、そのとき、日本に住む外国人の実態にも目を向け、ともに生きていこうとする態度を養うことで、プログラムで学んだことを還元していきたいです。

外国語として教える言語は異なりますが、ことばの奥深さや異文化交流のおもしろさを生徒たちに実感してもらえるような授業を目指し、このプログラムでの経験を活かして頑張っていくつもりです。日本語教員養成プログラムは、自分の将来の可能性を大きく広げるきっかけになるはずです。多くのみなさんが、このプログラムを通して、大学での学びをより充実したものにできることを祈っています。



▶ 日本語模擬授業

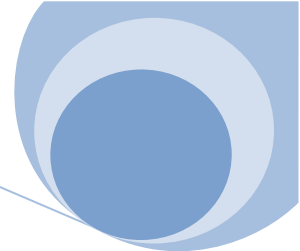


▶ 留学先の学生たちと

交換留学のススメ

私は4年次に、イギリスのオックスフォード・ブルックス大学で9か月間の交換留学を経験しました。歴史ある街で友人たちと過ごした刺激的な日々は、かけがえない思い出です。大学には日本語学科があり、ボランティアとして日本語の授業に参加させていただいたり、クラブ活動で日本に興味のある学生と交流をしたりして、日本のことばや文化についてあらためて学ぶことができました。

日本語を教えたり、会話練習をしたりするときに、日本語教員養成プログラムで学んだことが役に立ったときはとても嬉しかったです。日本語を通して出会った友人とは今もつながりがあり、お互いのことばの学びをサポートしあっています。山梨大学には、たくさんの海外協定校があるので、是非、交換留学という貴重な機会を使い、新しい出会いや発見につなげていってほしいと思います。



修了生の声

日本語教育実習Ⅱに参加して



衣川 沙希さん（プログラム修了生）

私はもともと異文化交流に関心があり、このプログラムを受講した動機も、将来外国の子どもたちと関わることができたら楽しそうだなというものでした。ただ、私自身の学校生活をふりかえると、日本語指導を必要とする外国人の子どもに会ったことはなく、外国人児童生徒教育という課題も私の中ではあまり強く意識されていませんでした。しかし、このプログラムでの学びを進めていくなかで、その意識は大きく変化していきました。

最初は、外国から来た子どもたちは、単純に日本語がわからないから、学校生活や教科の学習で苦労することが多いのだろうと考えていました。しかし、それは大きな間違いでした。外国から来た子どもにとって、第二言語である日本語の習得の問題は、アイデンティティの形成、さらに、その後の進学や就職にも大きな影響を及ぼすということがだんだんとわかってきました。

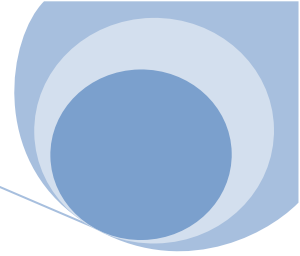
外国にルーツを持つ子どものほとんどは望んで日本に来たわけではありません。ある日突然日本に行くことになった子どもにとって、生活のための日本語を身につけることはもちろん、教科の学習すべてを日本語でこなさなければならないという試練が待ち受けています。そのうえ、慣れない日本の文化のなかで感じる孤独や葛藤もあり、またそのことを家族や友だちに上手く伝えられないというもどかしさもあります。

私は、日本語教育実習や教育ボランティアを通して、外国にルーツを持つ子どもたちと実際に触れ合うなかで、いつかこの子たちの力になりたいと強く思うようになりました。山梨県には日本語指導を必要とする子どもたちが大勢います。どの都道府県であっても少なからずいます。小学校にも、もちろん中学校や高校にもいます。私は、そのような子どもたちを精一杯支援していけるよう、これからも努力していきたいと思っています。

最後に、日本語教育実習で強く心に残っている出来事をお話したいと思います。

私が担当した児童は小学4年生の男の子でした。ある日、授業で漢字の書きとりテストが行われましたが、かれは1問も正答できませんでした。「ボク、漢字、イヤだ。早く遊びたい」と話していました。そこで私は比較的簡単な問題にしるしをつけ、「これだけでいいから、次のテストまでに練習しておいで」とアドバイスしました。すると、2週間後、「先生、ボク、25問正解したよ。今日はリベンジする」と言ってくれました。

何もわからず漢字の問題をただぼーっと見つめているときの表情も、それとは打って変わって自信ありげに、うれしそうに話をしてくれるときの表情も、どちらも忘れられませ



ん。この出来事を通して、私は、子どもにとって勉強がわからないということは本当につらいことなのだということ、そして指導や支援のしかたひとつで、子どもは驚くほど変わり、がんばれるのだということを学びました。

卒業後は、山梨県の中学校で教員として働きます。実際の教育現場で、外国につながる子どもたちを指導、支援していきたいと思っています。最初に書きましたが、プログラムを受講するまえの私には、そのような子どもたちの存在や、かれらの抱える悩みや思いは見えていませんでした。でも、日本語教育を学んだことで視野が広がり、教育に対する見方や考え方も変わりました。

このプログラムを学ぶ価値は、日本語指導のノウハウを身につけられるだけでなく、困難さを抱える外国人の子どもたちの実態を知ることができるという点にもあると思います。また、広く日本語教育を学ぶことで、国際的に広い視野と外国に対する柔軟な態度を育てることもできました。私自身の変化としては、外国人児童生徒教育に興味が湧いたこと、また、将来、青年海外協力隊に参加してみたいと思うようになったことがあげられます。

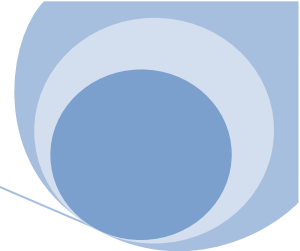
皆さんも、是非、プログラムを受講し、ここでしか体験できない学びの機会を得てほしいと願っています。



▶ 絵を見て説明してみよう



▶ 記号の意味を覚えよう



修了生の声

日本語教師って、こんな仕事！

川口 ^{あきら} 慧 さん（プログラム修了生）

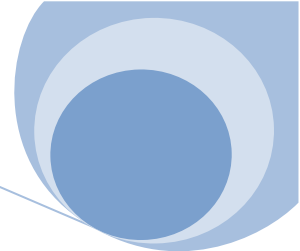
皆さんは、日本語教師ってどんな職業かご存知ですか。国語の先生というならわかるけど、日本語教師というのはそれとは違うんだよね。うーん、テレビや新聞で聞いたことがあるような気がするけど、具体的にはどんなことをしているのかあまりよく知らないという人のほうが多いのではないのでしょうか。ここでは、そんな皆さんに、日本語教師が毎日どんなことをしているのか、また、日本語学校ってどんなところかということをお伝えできればと思います。

日本語教師の仕事のメインはもちろん外国人に日本語を教えることです。日本人なら誰でも日本語が話せるし、日本語を教えるのはそれほど難しくないんじゃないのと思っているそこのアナタ！それはとんでもない誤解です。何しろ日本語の授業では日本人が想像もしない質問が次々に飛んでくるからです。例えば、私が教壇に立ったばかりの頃の話です。「私にとってやさしい」と「私に対してやさしい」の違いを説明してほしいと言われ、その日、学生が納得するまで説明させられたことは今でも忘れられません。

外国人が理解できることばが限られている中、どのように教えるかを考えるのは、まるでゲームやパズルのようです。また、授業をしていても実際に考えた通りに進まなかったり、学習者の負担を減らすつもりでやったことがかえって学生から不評だったり、失敗することも多々あります。しかし、学生たちの日本語が日々上達していく様子や、真面目に学習に取り組んでいる様子、日本語能力試験に合格し心から喜んでいる姿を見るにつけ、「今日もまた頑張ろう！」とやり甲斐を感じる仕事でもあります。

さて、日本語学校には、こうした日本語指導以外にも様々な仕事があります。その筆頭が留学生の生活指導です。留学生の生活指導は、毎日の授業の出席確認にはじまり、悩み相談の相手になるといったこともあります。相談の内容はじつに多様で、日本語の勉強、アルバイト、オススメのラーメン店の紹介に恋バナまで、本当に色々な相談が寄せられます。そのようなかれらの思いに寄り添い、コミュニケーションを図ることも日本語教師の大切な仕事のひとつです。

次に、進学支援、就職支援という仕事もあります。これは日本の高等学校における進路相談と同じようなものです。日本語学校で学ぶ留学生は、日本の大学や専門学校に進学を希望したり、日本企業への就職を目指したりします。こうした留学生のキャリアデザインをサポートすることも、私たち教師に求められる仕事のひとつです。具体的には、日本語



学校で実施される進学説明会の企画・運営、日本留学試験の対策講座の立案、進路支援のための面談の実施などがあります。

留学生との進路面談では、かれらの希望を聞きながらそれぞれの能力に合った学校を紹介し、志望校を決めていきます。ときには、志望校のレベルが高すぎて、かれらに進路を考え直させるということもあります。こうした進路支援は、一人一人の将来を決める重大な責務をとまなう仕事で苦勞も多いですが、留学生と二人三脚、様々な試練を乗り越えて志望校に合格できたときの喜び、そして卒業のときの「先生、ありがとう！」の一言は何にも代えがたいものがあります。

こんなふうに、日本語教師という仕事は本当に様々な側面を持っています。言い換えると、それだけ様々な資質や能力を発揮できる仕事であるということです。色々と堅苦しいことも書きましたが、もし、日本語教師という仕事に少しでも興味を持った人、興味はないけどちょっと気になるという人、ぜひ気軽に本校に遊びに来てください。色々な国の学習者といっしょに皆さんをお待ちしています。

最後になりましたが、日本語を教えるということは本当に楽しいですよ！



▶ 日本語を教える川口さん



▶ 授業のあと、留学生たちと

ユニタス日本語学校

ユニタス日本語学校は、語学教育を通じた国際人養成を目的に 1970 年に設立された語学学校で、1983 年に日本語学校を付設し、現在 20 か国以上の国の人たちが日本語と日本文化を学んでいます。

川口さんは、山梨大学で日本語教員養成プログラムを終え、さらに在学中に大学間連携協定校 タイ王国コンケン大学で 1 年間日本語教育を学んだあと、ユニタス日本語学校甲府校に赴任し、現在、日本語教師として活躍しておられます。

※ 日本語教育概論の授業では、川口さんをゲストスピーカーとしてお招きし、直接お話を聞く機会があります。

No. 2158



教育ルネサンス

外国人の子の
学習支援

5

外国人児童(左手前)の補習
を担当する山梨大の学生ら



★外国人児童生徒の指導法を
教える大学の例

【横浜国立大】小学校の教員養成課程の学生らを対象にしたコースを開設

【京都教育大】教員養成課程の学生を対象にしたコースを開設

【信州大】教員養成課程の学生を対象にしたコースを開設

【愛知教育大】小学校の教員養成課程の学生らを対象にしたコースを来春開講予定

「この魚はどんな気持ちかな?」。甲府市の市立小
学校で6月中旬、山梨大学教
育学部4年生3人が、外国
人児童の補習の方法を学ぶ実
習を行った。
長田朱音さん(21)は、フイ
リピン出身の2年生男子の補
習を担当。国語の教科書に収
録された海が舞台の童話「ス
イミー」をゆっくりとしたペー
スで一緒に音読した。

長田さんは、登場する魚た
ちの気持ちを表す笑顔や泣き
顔の絵を別に用意し、場面ご
との魚の気持ちに合わせ、内
容を理解しているか確認しな
がら音読を進めた。

小林史奈さん(21)、青木優
香さん(22)の2人は、ペルー
出身の4年生女子の補習を担
当した。ペルーの特産品や地
理を手書きの日本語と絵で紹
介する新聞作りを指導。女子
児童は「わかりやすく教えて
くれた。もっと一緒にやりた
い」と楽しげだった。

山梨大は、教員養成課程の
学生が、外国人の子どもの指
導できる技能を習得するコー
スを2008年に開設した。
こうした現状に、大学在学
中に外国人の子を学習指導す
る技能を身に付けてもらう取
り組みに注目が集まっている。

山梨大は、教員養成課程の
学生が、外国人の子どもの指
導できる技能を習得するコー
スを2008年に開設した。

こうした現状に、大学在学
中に外国人の子を学習指導す
る技能を身に付けてもらう取
り組みに注目が集まっている。

山梨大のコースを担当する
仲本康一郎准教授(日本語教
育)は、「学習支援が必要な
外国人児童生徒が県内でも増
え、将来教員になる大学生へ
の期待は大きい。外国人の児
童生徒に教えられる技能を身
に付けることが大きな糧とな
るはずだ」と話す。

＊この連載は泉田友紀が担
当しました。次のシリーズは
「部活動」をテーマにする予
定です。

教員志望学生が技能習得

学
ぶ
育
む

ように教えればよいのか、生活
様式や宗教などの違いを理解
する方法などを学ぶ。

文部科学省によると、日本
語が十分に理解できず、学習
支援が必要な外国人の児童生
徒は、2014年度で全国の
公立小中学校など6137校
に在籍する。一方、平易な日
本語で指導する技能を持つ専
任教員は今年度で約1600
人しか配置されていない。

文科省の有識者会議が今年
6月にまとめた報告でも、教
員を目指す学生が、外国人の
学習指導法を学べる取り組み
を進めることを提言。現職教
員の技能を高める研修方法の
開発も促した。